

令和6年度 岡山県立総社高等学校 学校評価書

【自己評価】

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

○授業改善推進室

初任者研修も含め、学力向上を目指し授業公開をおこなった。6月には多くの教育実習生も含め、教科を超えて積極的な授業参観がおこなわれ、職員室内で振り返りを行う姿が見られた。

オーストラリアの海外研修、インドネシアとの交流会等、グローバルな視野を広げる機会もあり、高校生活や中学生に向けての広報としての活躍を期待している。

○教務課

採点システムの「百問繚乱」の活用も積極的であり、今年度から導入された同時双方向型遠隔授業も現在5名の生徒が受講している。FCEプロンプゲートICTを有効活用することで、業務がスムーズにおこなわれている。

○生徒課

生徒が主体的に活動する場面が多く見られるようになってきた。校則については、生徒会総務部が中心となって、見直しをしている。総高祭でスマートフォンを使用するための働きかけやルールづくり等もおこなった。来年度は、中国インターハイが開催されるので、生徒の自己肯定感を高める機会にもなると考えている。

○進路指導課

進路に関わる学校自己評価アンケートは、すべて昨年度を上回った。この数字の上昇が、進路実現につながるようにも支援していきたい。

○1年生

学校自己評価アンケートでは、地域探究についての項目で、89%の生徒が肯定的な評価をし、習熟度別授業に関する項目では、93%という高い肯定的な評価である。見えない学力の育成ができていない。家庭学習の時間が十分ではない生徒もいるため、見える学力の育成が課題である。

○2年生

この学年は挨拶がよくでき、教職員とよくコミュニケーションがとれている。生徒の学校への信頼感が高く、土曜開放にも多くの生徒が参加している。「総合的な探究の時間」では、個人探究も充実し、また、ボランティア活動にも継続的に参加する生徒もおり、見えない学力を身につける機会を生徒自ら増やしている。

○3年生

この学年から単位制に移行している。最後まであきらめない学ぶ姿勢が見え、普通科は、学習の総仕上げとして、共通テストをほとんどの生徒が受験をした。後期試験まで粘り強く受験する生徒を、最後まで支援していきたい。

○家政科

コンテストにも積極的に参加し、優秀な成績を残している。サスティナブルドレスを作成し、展示している。様々な角度から物事を見る力をつけ、実践していきたい。

○学校改革推進センター 広報推進室

計画を組んで更に広報活動を推進する。広報関係の資料を1年団の先生方に持参してもらったりオープンスクールを生徒主体でおこったりすることで、顔の見える広報活動をおこなった。今年度は、オープンスクール、学校説明会等、行事ごとにフライヤーを作成し、少しでも学校生活を知ってもらおうと取り組んだ。

○図書課

生徒の読書離れを懸念している。小論文指導の場面で、長文が読み込めない生徒が増えており、活字を読むことを習慣づけるために、興味付けが必要である。

【学校関係者評価】

○進路指導が昨年度より良い評価であるが、さらにその上をどう目指すのかを問い続けてもらいたい。学習実態調査に「総合的な探究の時間」は入っていないということで、どれくらいの時間を費やしているか調査してみてもよいと思う。

○地域の方々から学校に課題を伝えてみる機会もあっていいのではないだろうか。

○「見える学力」「見えない学力」ということで、県立大学でもミスマッチがおこり退学する者もいる。共通テストでこの点数だからこのランクの大学に、ではなく、しっかりと自分の生き方を問うて視点を多くもって大学を選んでもらいたい。

○頑張ろうとしている生徒を応援している、認めている学校である。図書館をさらに活用して、社会的な意見をいえるような生徒を育てていってほしい。

○「総合的な探究の時間」では、実践に近いものが増えてきているが、さらに自分の身近な例を考えて、失敗を深掘りして、失敗したことも話せるようにしておくこと入試の面接等でも役立つ。

【来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）】

○総合的な探究の時間では地域の課題解決・個人の課題解決、そのプレゼンテーションの方法、学習成果に対して、専門家の意見を聞き、意見交換までできる段階になった。次は、自分事としてとらえ、さらに深掘りをしていくことが求められる。地域とのつながりをさらに密にし、具現化してほしい。

○習熟度別少人数授業の充実も含め、「安心・安全な授業づくり」の観点から、常に「本当にこれがベストなのか？」を問い続けていく。

○広報活動の一環として、HPやSNSだけでなく、自分の言葉で語れる高校生を育てる。